



学習指導要領改訂に向けた論点Ⅱ

教育課程を実施する上での学校現場の過度な負担を防ぐための在り方

- 教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合う必要性はあるが、その負担感がどのような構造により生じているのか精緻に議論すべき。その際、教師の「ワーク・オーバーロード」と、いわゆる「カリキュラム・オーバーロード」との呼称で指摘されている諸課題は区別して議論し、学習指導要領や同解説の在り方に加え、**厚い教科書・入試の影響・教師用指導書も含めた授業づくりの実態など**を全体として捉えて対応し、教育課程の実施に伴う過度な負担感が生じにくい仕組みを検討すべき。
- 学習指導要領の分量や、教職員定数といった教育環境のいずれか一方で全てを解決するといった短絡的な議論に陥ることなく、負担が生じる原因に丁寧にアプローチし、**教育課程と教育環境整備が全体として機能**するようにすべき。
- **総授業時数**については、現在以上に増やすことがないように検討すべき。
- 1コマ1コマの授業づくりに追われるのではなく、**学年や学期**といった長いスパンも念頭に、**単元をベースとして授業を構想**することや必要な評価場面を精選することは指導や評価の負担感を防ぐとともに、**授業づくりを通じて学びに関する高度専門職としての教師の成長を促し、資質・能力のよりよい育成や多様な子供を包摂する上でも重要な手立てである。**
- 単元をベースとして授業を構想することの**重要性や示し方**を検討すべき。その際、単元という単位で授業を構想することの**具体的な意義や単元という概念の指し示すところ**について整理し、学校現場に分かりやすく伝わるように示していくことが重要。

「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」(令和6年9月18日)

困難の時、得意の時

実業家 渋沢栄一

困難の時には、かえって事業の基礎を強固にし、得意の時には、多くの腐敗の因を醸(かも)すものである。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」(致知出版社)

※ いずれの時にも思い出し、己を戒めたいと思います。